

普及だより

中予地方局農業振興課

地域農業育成室・産地戦略推進室

〒790-8502 松山市北持田町 132 番地

tel (089) 909-8762

伊予農業指導班 〒799-3122 伊予市市場 127 番地 1

tel (089) 982-0477

久万高原農業指導班 〒791-1202 上浮穴郡久万高原町入野 263 番地

tel (0892) 21-0314

ホームページアドレス <https://www.pref.ehime.jp/chu52109/chuyo/index.html>

令和6年2月発行



～さといもの産地振興に取り組んでいます～

■機械化体系による省力化の推進

中予管内では、さといもの栽培面積が 11.3ha と近年急速に拡大しており、規模拡大を志向する農家の増加も見込まれることから、機械化体系の検討も行っています。

そこで、県農林水産研究所と連携して、さといも栽培農家を対象にドローン防除実演会を開催しました。参加した農家はドローンの実用性を体感し、「短時間で作業できるドローン防除に興味を持った」「株元まで薬液が付着することが確認できた」等の声が聞かれ、ドローンの防除効果に関する理解を深めることができました。また、先進地である西条市の農事組合法人で収穫機による掘り取り作業の省力化について視察研修を行いました。

今後は、機械化体系による栽培を推進し、産地の拡大を目指します。



ドローン防除実演会



収穫機による掘り取り作業の実演

■「媛かぐや」の産地振興

伊予農業指導班は、伊予地区において、甘みがあり、ほくほくした食感が特徴の愛媛県オリジナル品種のさといも「媛かぐや」の産地振興を進めています。「媛かぐや」は、既存の「愛媛農試 V2 号」（伊予美人）と比較して、芋の形が大きく加工適性に優れ、収益性が高いことが特徴ですが、安定生産や消費者への認知度など課題もあります。そのため、今年度は、セル苗密植栽培の導入、「愛媛農試 V2 号」との混植栽培実証、需要創出等に取り組みました。

今後は、栽培面積の拡大と合わせて、優れた加工適性を活かした加工・流通体制の構築と販促活動による商品 PR に努め、産地振興を図っていきます。



収穫された「媛かぐや」



店頭販売で商品 PR

柑橘基盤整備園での土づくりを啓発（地域農業育成室）

中予管内では8地区で柑橘の樹園地整備が進められており、地域農業育成室は営農計画の策定や造成地での土づくり、早期成園化等を支援しています。

今年度、工事に着工した松山市浅海原地区では、土づくりへの意識を高めるため、受益農家を対象に研修会を実施しました。研修では、基盤整備先行地区（松山市下難波地区）の土壌調査結果や、緑肥による土づくり及び表土流亡防止実証の報告と併せて、現地の土壌と緑肥（ソルゴー・クロタラリア等）を持ち込み、現物を見せながら説明しました。

農家は、造成地での堆肥投入前後の土壌や緑肥を直に見ることで、土壌改良の効果を実感することができ、土づくりの必要性を再認識しました。また、農家からは、「緑肥を活用した土づくりに取り組みたい」との意見が聞かれました。



土づくり研修会（浅海原地区）



堆肥投入直後の浅海原基盤整備地区
(○投入した堆肥)

暑さに負けず「ひめの凜」好成绩（伊予農業指導班）

伊予地区における県オリジナル水稲新品種「ひめの凜」は、5月下旬から田植が始まり、10月24日に収穫が終了しました（栽培面積62ha、認定栽培者75人）。

県では「ひめの凜」の品質・食味を確保したブランド化を図るため、認定栽培者による作付けを推進しており、栽培者等を対象にした作付事前講習会や中干講習会等を通じて、高品質生産に取り組んでいます。

今年は8月下旬の出穂期以降気温が高く、特に9月は平年より2.7℃高く、非常に高温で推移したことから、品質低下が懸念されましたが、高温耐性を有する「ひめの凜」では、美味しさ基準のハイクオリティ以上の格付けを出した栽培者が全体の83%（うちプレミアムクオリティを出した栽培者は58%）と好成绩となりました。

「ひめの凜」に対する消費者の関心も年々高くなっています。生産者の皆さん、プレミアムクオリティを目指して「ひめの凜」の栽培を始めてみませんか！



穂肥診断による適正な施肥指導



収穫中の「ひめの凜」